

藤井組

施工空間が確保しづらい場所での杭打ちを得意とする専門工事業者

日本の  
トップランナー企業

藤井組(大阪市)は建物や構造物の基礎工事のうち、鋼製杭(鋼管杭、H形鋼杭、鋼矢板、鋼管矢板)の施工を請け負う専門工事業者である。特に高速道路の高架下や鉄道の線路内、狭小敷地など、施工空間が確保しづらい場所での作業を得意としている。1980年代から「アルファシステム工法(α工法)」など、限られた空間に適した工法や設備の開発に取り組み、業界をリードしてきた。施工技能者を正社員として雇用し、常に技術力や工品質の向上に努めるほか、仕事と生活双方の充実を目指す「ワーク・ライフ・バランス」を意識した経営も推進している。

独自工法を  
確立

2021年、α工法は機しかなかった。今後には横浜地下鉄駅新設プロジェクトの基礎工事に小型の施工機を投入。それまでは深い穴にコンクリートを流し込んで杭を形成する方式の現場打ち杭しか地下道路がある工区に初めて導入した。

2021年、α工法は機しかなかった。今後には横浜地下鉄駅新設プロジェクトの基礎工事に小型の施工機を投入。それまでは深い穴にコンクリートを流し込んで杭を形成する方式の現場打ち杭しか地下道路がある工区に初めて導入した。その後、1997年には横浜地下鉄駅新設プロジェクトの基礎工事に小型の施工機を投入。それまでは深い穴にコンクリートを流し込んで杭を形成する方式の現場打ち杭しか地下道路がある工区に初めて導入した。



▲ 森致光社長

技術者を  
直接雇用

森社長は、父親で前社長の瑞樹氏の死去に伴い、2000年に経営トップに就いた。当時はいわゆるリストラが多かった。森社長は「自社で施工機械や設備を持ち、自社の社員で施工するという専門工事業社のあるべき姿を体現している」と、森社長は胸を張る。

森社長は、父親で前社長の瑞樹氏の死去に伴い、2000年に経営トップに就いた。当時はいわゆるリストラが多かった。森社長は「自社で施工機械や設備を持ち、自社の社員で施工するという専門工事業社のあるべき姿を体現している」と、森社長は胸を張る。



▲ アルファシステム工法に対応した最新の施工機「FG-150N」

全プロセス  
が商品

「美しい仕事を提案、施工までの全プロセスである。仕事に就任以来、常に経営の誇りと責任を持ち、指針としてきた言葉である。美しいということも配慮して、無事故無災害で仕事を終える。境を思い浮かべることもすべての過程で、プロシヨナルでありたい。プロとして全力を尽くした先にある美しい仕事」を目標として、藤井組は前進を続ける。



▲ 本社 機材センター